

氏名

点数 点/100点

各論演習 20-1

問1)

以下の連結会計に係る文章の空欄について、解答欄から正しい語句を選び、○印を付しなさい。

**I WHY? ▶連結財務諸表はなぜつくるのか？**

連結財務諸表とは、支配従属関係にある2つ以上の企業からなる集団を1つの組織とみなして、( ① ) が当該企業集団の財政状態、経営成績等を総合的に報告するものである。

企業の多角化等の著しい環境変化に伴い、企業の側においては企業集団全体としての経営重視の傾向、投資者の側からは企業集団全体の情報に対するニーズが高まっていた。そこで、( ③ ) よりも ( ④ ) を優先し、企業集団を1つの組織とみなして連結財務諸表を作成する。

**II RANGE ▶連結の対象となる範囲は？**

親会社は、原則として ( ⑤ ) 子会社を連結の範囲に含めなければならない。

ここで、親会社とは、他の企業の株主総会などの意思決定機関 ( ⑥ ) 企業をいう。また、子会社とは、他の企業に意思決定機関 ( ⑦ ) 企業をいう。

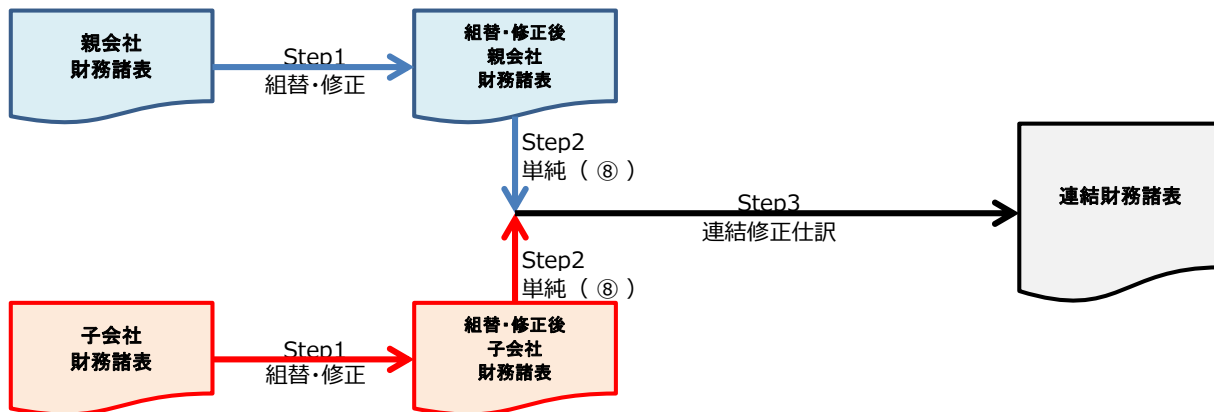
**III OUTLINE ▶連結財務諸表作成の概略**

連結財務諸表は、帳簿外の連結精算表で親会社と各連結子会社の個別財務諸表を ( ⑧ ) し、連結修正仕訳を施して作成する。連結財務諸表の作成に係る簿記一巡を示すと以下のとおりである。

Step1 : 親会社・子会社の個別財務諸表の組替・修正

Step2 : 組替・修正後の個別財務諸表を単純 ( ⑧ )

Step3 : 連結修正仕訳



Step1 : 親会社・子会社の個別財務諸表の組替・修正

個別財務諸表の勘定科目を連結財務諸表の勘定科目に組み替えたりなどする。例えば、個別上の“受取手形”勘定と“売掛金”勘定をあわせて“受取手形及び売掛金”勘定にするなど。

Step2 : 組替・修正後の個別財務諸表を単純 ( ⑧ )

組替修正後の各会社の同一勘定科目を単純に ( ⑧ ) する。

Step3 : 連結修正仕訳

組替修正後の各会社の財務諸表を単純に ( ⑧ ) しただけでは、企業集団内の取引に係る項目が含まれたままである。そこで、企業集団を1つの報告主体とするために、これを修正する必要がある。そのために行う仕訳を連結修正仕訳という。この連結修正仕訳を、仕訳の対象で分類すると以下のとおりである。

資本連結 :	親会社の子会社に対する ( ⑨ ) とこれに対応する子会社の ( ⑩ ) を相殺消去し、消去差額が生じた場合には当該差額をのれん ( ⑪ ) または負ののれん発生益 ( ⑫ ) として計上するとともに、子会社の ( ⑩ ) のうち親会社に帰属しない部分を ( ⑬ ) に振り替える一連の手続き。
成果連結 :	企業集団内の ( ⑭ ) や債権債務の相殺消去、未実現損益の調整を行う手続き

解1)

①		親会社		子会社
②		分析		報告
③		法的形式		経済的実質
④		法的形式		経済的実質
⑤		すべての		重要な
⑥		を支配している		に重要な影響を与えている
⑦		を支配されている		が重要な影響を与えられている
⑧		合算		リスト作成
⑨		資本		投資
⑩		資本		投資
⑪		(無形固定資産)		(投資その他の資産)
⑫		(固定負債)		(特別利益)
⑬		少数株主		非支配株主
⑭		取引		株式

